

1 「無意識のバイアス」(二五五・13)とあるが、自分の回りにある「無意識のバイアス」の具体例をあげ、それらについてどのように向き合うべきか論述してみよう。

▼筆者の主張を理解する

①「無意識のバイアス」をわかりやすく言い換えなさい。

②第四段落(二五五・8～二五六・9)にあげられている「無意識のバイアス」の具体例を説明しなさい。

③人間の「バイアス」に対する筆者の考えをまとめなさい。

▼筆者の主張を踏まえて具体例をあげ、解釈を深める

④①～③の内容を踏まえて、自分の回りにある「無意識のバイアス」の具体例をあげ、それらについてどのように向き合うべきか論述しなさい。

2 本文の内容を踏まえたうえで、次の文章で述べられていることについて、自分の考えを論述してみよう。

人文・社会的な学術分野については、経済効果が見えにくいことに加えて、それがあつ一つの「正しい」結論に収斂するわけではないことが、政治の介入を招きやすい。専門家集団の中で共有されている議論をそれなりに尊重するという姿勢に代わつて、専門家の合意も一つの意見にすぎないし、それは既得権者の合意なのだから、民意を代表する政治家の意見のほうこそ優先されるべきだ、といった発想も出てきているのです。

(杉田敦『政治的思考』)

▼二つの文章を読み比べる

① 杉田敦の文章について、《学問の政治性》との共通点を簡潔にまとめなさい。

② 杉田敦の文章にあげられている「民意を代表する政治家の意見のほうこそ優先されるべきだ、といった発想」に対して、【賛成派】と【反対派】二つの立場を想定し、《学問の政治性》の語句を用いて、賛成／反対するそれぞれの根拠を箇条書きにしなさい。

【賛成派（賛成する根拠）】

【反対派（反対する根拠）】

③ 【賛成派】【反対派】のいずれかの立場を選び、杉田敦の文章で述べられていることについて、②であげた根拠を踏まえて自分の考えを論述しなさい。